### 留学報告書

工学部都市工学科都市計画コース3年 畑岡 愛佳

# 概要

2018 年 8 月から 2019 年 5 月まで、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校(以下イリノイ大学)で全学交換留学をした。留学前に東京大学での 3S セメスターを終了し、約 1 年間の留学後は 3A セメスターから東京大学で再び履修するで、1 年間卒業が遅れることになる。この報告書にて、約 1 年に及ぶ留学を振り返ってみる。

## 留学前

#### 1. 動機

高校2年のときに、ニュージーランドに2週間のホームステイを経験してから、長期的な留学には漠然とした憧れがあった。東京大学入学後、留学説明会などに積極的に参加するうちに、交換留学制度を知った。専門過程が始まり、専門の基礎知識を得てから留学したい、また、留学後に、留学先で学んだことを織り交ぜながら、東京大学で残りの学習に取り組みたいという思いから、3Sセメスター後という留学時期を選択した。

## 2. 準備

留学申請手続、(イリノイ大学から要求される)予防接種、寮探しや航空券購入の他に、イリノイ大学に留学経験のある先輩方に話を伺った。寮の雰囲気やイリノイ大学でのイベントなど情報を得ることができた。

#### 留学中

#### 1. 費用

航空券 200,000 円

派遣先大学への支払い(施設使用料など) 65,000円

娯楽 60,000 円

旅行費/長期休暇滞在費(長期休暇中は寮に滞在できない) 500,000 円

家賃 85,000 円/月(大学の寮)

食費 65,000 円/月(ミールプラン加入)

### 2. 授業

Fall Semester 8 月下旬から 12 月中旬まで (単位数)

Introduction to City Planning (3)

The Modern American City (3)

Watershed Ecology and Planning (4)

Urban Design and Planning (4)

Spring Semester 1 月中旬から 5 月初旬まで

Shrinking Cities (4)

Guatemala Water Project II (3)

Implementation Trip (1)

Environmental Issues Today (3)

Digital Photography 4 Everyone (3)

授業によって、そのスタイルは大きく異なる。リーディングが多い授業や、グループワークが主となる授業を各学期履修した。リーディンの予習をもとに毎授業が行われるので、セメスター中はリーディングに常に追われていた。グループワークは授業外でのミーティングを必要とするものが多かった。特に、Fall Semester に履修した Urban Design and Planning では、授業は週1回のみであるが、授業時間外にグループ作業を行うことが前提となっていた。週1~2回程度、グループで集まって夜遅くまで作業した。

多年代の学生と授業を取れたことも貴重な経験だった。大学院生と学部生の両者が履修できる授業が存在し、私の履修した授業の中では、特に Urban Design and Planning と Shrinking Cities は半数以上の学生が院生だった。イリノイ大学 Urban Planning の大学院生は日本と異なり、多様なバックグラウンドをもつ人が多く(学部卒業後すぐに修士課程という人は珍しい上、イリノイ州外から来た人が大多数)、彼らとのディスカッションはとても刺激的だった。(シャンペーン市の都市計画課で働きながら学生をしている人、デトロイトに複数の空き地を所有している人、日本で英語教師として働いた経験がある人など、、、、)

また、教授とじっくりと話すことができたのも良い経験だった。Guatemala Water Project II ではグアテマラのエル・ドゥラスノという小さなコミュニティに水システムをデザインするという授業だったが、6人の生徒と教授とで、Spring Vacation に現地調査に行った。コミュニティの将来、工学の役割のみならず、大学の役割など幅広いテーマについて日常的に会話をすることができた。また、教授とのメールでのやり取りや Office Hourの利用が活発的に行われている。Introduction to City Planning のある授業でバルセロナに

おけるバイクシェアの話題が取り扱われたが、一週間後に迫った Thanksgiving Vacation にバルセロナを訪れる予定だった私は、バイクシェアについて詳しく知りたいと思い、メールを教授に送ったことがある。教授はとてもフレンドリーで直接会って話を聞かせてくれた。

### 3. 授業外の活動

キャンパス内に寮が位置し交通時間が短い、コーン畑に囲まれた小さなキャンパスタウンにはあまり娯楽施設がないなどの理由から、日本にいたときよりも勉強時間を多く取ることができた。勉強時間以外は、ジムでヨガやランニングをしたり、友達の家で映画鑑賞や料理をしたりして過ごした。また、GLOBE(Global Leaders: Orange and Blue Engagement)という大学のプログラムに参加し、それを通じた友達と過ごす時間が多かった。



シンガポールからの交換留学生と作ったマレーカレー

#### 授業外活動のハイライトとしては

- ・Office of Inclusion and International Relation に協力してもらい、別の日本人留学生と一緒に手巻き寿司パーティーを主催したこと
- ・アーバナ・シャンペーン市内で行われるハーフマラソンに参加したこと
- ・サンフランシスコで行われた American Planning Association の National Planning Conference に参加したことが挙げられる。



手巻き寿司パーティーで寿司についてのプレゼン

# 4. 長期休暇

長期休暇としては Thanksgiving Vacation(11 月下旬に 1 週間ほど)、Winter Break(12 月中旬から 1 月中旬までの 1 ヶ月ほど)、Spring Vacation(3 月下旬に 1 週間ほど)の 3 つが挙げられる。

## Thanksgiving Vacation

スペイン(マドリード、バレンシア、バルセロナ、ビルバオ)を観光。

## Winter Break

ボストン、ニューヨーク、エクアドル(キト、ガラパゴス、グアテマラ)を観光。

# **Spring Vacation**

グアテマラ(エル・ドゥラスノ)にて Guatemala Water Project II の現地調査。



グアテマラにて現地調査

## 留学を終えて

最も大きい変化は、向上心の高まりである。

自分が慣れ親しんだ環境から離れ、学習や生活をする中で、東京(特に都市工学専攻の身として)や日本だったらどうであるかということを常に考えずにはいられなかった。そこから、場所による違いが生まれるのはなぜか、日本らしさとは何か、日本人として何を主張できるのかなどと、疑問が連鎖的に生じた。自分の慣れ親しんだ環境が盲点だらけでいることに気づいた。そして、それは恥だとか責任感だとかといった学習意欲を引き出す源となった。

また、修士課程や博士課程の人と議論をしたり、遊びに出かけたりすることが多かったが、彼らの知見の深さ、論理的思考力、リーダーシップ、人生観に日々刺激を受けずにはいられなかった。彼らに対する尊敬や憧れもまた、向上心を掻き立てるきっかけとなった。

そして、この一年で英語能力は大きく上達したものの、正直、最後まで劣等感が拭いきれなかった。授業で自分の意見を発するのをためらったり(日本語だったら手を挙げていたのにという悔しさ)、さりげない会話が聞き取れなかったり、エッセイで文法上の指摘をたくさん受けたりした。振り返ってみれば、こうした劣等感というものは、(英語の域を超えて)成長する方向へと自分の背中を押してくれていたのかもしれない。

恥や責任感、尊敬や憧れ、劣等感、これらの感情に付きまとわれたこの1年間、自分を更に磨きたい、成長したいという向上心は高まった。この高まった向上心をいかに今後も行動に移していくか、また、向上心をどう保ち、高めていくかは、留学後の自分次第である。留学での貴重な経験を思い返し、貪欲に成長し続けたい。

そして、最後に留学先で直接お世話になった友人 や教授、日本から金銭的・精神的サポートをして くれた家族や友人、その他大学関係関係者に感謝 申し上げたい。



お世話になった友人達